



ハイライトよねやま 147

1 寄付金速報 — 今年度最後のご協力を！ —

5月までの寄付金は、前年同期と比べて1.5%減、約1,800万円減少の11億8,400万円となりました。普通寄付金が0.7%減、特別寄付金は1.9%減でした。また、5月単月の寄付額も昨年より60万円減少しました。

今年度も残り半月です。今年度の普通寄付金をすでにご送金いただいたクラブは、昨年は5月末現在で2,232クラブであったのに対し、今年度は2,166クラブと、66クラブ減少しています。5月末には、板橋敏雄理事長から各地区ガバナーに宛てて、これまでのご寄付に対する御礼と、今年度最後の寄付増進に向けたお願いの文書を郵送しました。普通寄付金・特別寄付金ともに、6月29日（金）当会口座入金分までが今年度の寄付実績となります。ぜひとも今年度最後のご協力をよろしくお願い申し上げます。

2 「東京米山ロータリーEクラブ 2750」が創立

第2750地区（東京）で6月2日、日本で3番目のEクラブ、東京米山ロータリーEクラブ2750が創立されました。スポンサークラブは、米山学友を中心として2年前に設立された東京米山友愛ロータリークラブです。創立会員27人のうち米山学友は16人、メンバーの国籍は7カ国にわたるといふ、スポンサークラブ譲りの国際色の豊かなクラブです。

総会当日は、田中作次RI会長エレクトのご出席のもと、小沢一彦ロータリー財団管理委員、片倉章雄ガバナー代理の市川伊三夫パストガバナー、板橋敏雄米山記念奨学会理事長らの祝辞を受け、盛大な創立総会となりました。特別代表の関博子氏は「当地区で米山学友を中心としたEクラブを創立し、世界を繋ぐネットワークを作るというのは片倉ガバナーが掲げられた目標」と言い、当日病気のためにやむなく欠席となった片倉ガバナーのEクラブ創立に向けた強い思いを訴えました。このほか、クラブ定款・細則の採択、理事役員を選出、国際ロータリーの加盟申請が行われ、初代会長に就任した米山学友のファオジア・ディナさん（インドネシア／2008-10）は、奨学生としてお世話になった東京昭島RCの全会員、特に、親身になって支えてくれた渡辺和義カウンセラーに深い感謝を示し、「初代会長として推薦されたことを深く受けとめ、先輩ロータリアンから多くを学んでいきたい」と、決意を語りました。

田中作次RI会長エレクトは、「スピード感のある社会の中で、従来の方式から脱皮すべく新しい形式のクラブが創立されるのは必然であり、若い層の入会の道として整えるべき点である」と力強く述べ、板橋理事長も「米山学友は“Peace Through Service”の担い手として大きな役割がある」と、第2750地区で創立されたEクラブに対して大きなエールを贈りました。



片倉章雄ガバナーは、創立総会開催を前に、5月30日に他界されたことが、6月5日に発表されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

3 第2回理事会開催報告

公益財団法人となって2回目の理事会が6月7日、都内のホテルで開催されました。

全国から32人の理事と3人の監事が出席し、板橋敏雄理事長による進行のもと、2012年度事業計画・収支予算がそれぞれ原案通りに承認されました。また、前回の理事会で決議された2013学年度奨学生採用数700人について、地区別割当数算出方法と募集要項を審議しました。このほか、公益財団法人移行に伴い、現在の理事・監事の任期が今年9月開催の評議員会までとなるため、役員候補者指名委員会を設置することが決議されました。

会議終了後、中澤剛理事（第2530地区）から発言があり、福島県の浪江RCと富岡RCは全会員が避難生活を余儀なくされているにもかかわらず、今年度も、米山記念奨学会へ多額の寄付をしていることが報告されました。板橋理事長は「大変困難な状況にありながらご寄付を頂戴したことに感謝を申し上げたい」と、即日両クラブへ礼状を送りました。



4 大勢が参加して絆を確認 —第2770地区学友会総会—

6月2日、第2770地区（埼玉県南東部）米山学友会の総会がさいたま市内で開かれ、奨学生と学友56人と、パストガバナーや歴代の地区米山記念奨学委員長、カウンセラーなどロータリアン44人が参加。久しぶりの再会に会場のあちらこちらで笑顔がこぼれました。



同地区の学友会総会は例年、役員中心の小規模なものでしたが、磯貝九万地区米山奨学委員長のアドバイスもあり、今年は学友会総会実行委員会を組織して多くの奨学生・学友に参加を呼びかけ、学友自らの手で準備をすすめました。

ロータリー米山記念奨学会監事を務める坂巻幸次氏は「私がガバナーだった時代は学友会活動が活発だったので、久しぶりに（大規模な）総会が開かれて感無量」と喜び、三国明ガバナーも「今後、ロータリーとの連携で豊かに発展する可能性がある」と、学友会への期待を語りました。



会場が最も盛り上がったのは、スカイプ（無料のインターネット電話サービス）を利用した海外在住学友とのテレビ電話。学友の顔がスクリーンに映し出され、「みなさん元気ですか？私は今、中国の大学で学生に日本語を教えています」、「私は会社の研修で台湾にいます。新婚生活で楽しい毎日です」など、2人の学友

が登場してそれぞれ現在の仕事や生活について話し、会場からは何度も拍手が沸き起こりました。

同学友会会長の李成哲さん（中国／2005-06／川口モーニングRC）は、「われわれ学友は世界のどこにいても、日本のロータリアンのことを忘れていない。今日を新たな出発点とし、今後ますます花を咲かせ、実らせ、種子を飛ばしていきたい」と、抱負を述べました。